

平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月5日

代表者 樋口 一貴

研究課題名	世界各地の博物館・美術館における東アジア美術の常設展示および特別展覧会企画と展示方法の比較研究
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
共同研究者	
1. 今年度の研究概要	
<p>平成27年度、本学に文芸文化学科が新設され、学科内に学芸員資格取得課程が設置された。研究代表者は本課程の科目のうち「博物館概論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館実習」「芸術と人間」を担当する。本研究によって得られる知見は、同課程の講義において、世界各地の博物館・美術館の展覧会企画や展示方法の実態を比較しつつその多様性を示して、課程履修学生の学びに活かすことができる。</p> <p>ここで対象を東アジア美術に限ったのは、大きく2つの理由による。第1に、東アジアの美術工芸品は、西洋のそれに比べて脆弱であり、博物館・美術館はよりデリケートな保管・展示の環境を整備しているためである。第2に、本学学生が日常的に見学することのできる国内の博物館・美術館の収蔵品は、主に日本美術作品や日本に伝来した東アジア美術作品であるため、同種類の展示作品レベルが内外の施設で如何に展示されているか比較しやすい。以上の理由から、本研究は、平成30年度の学芸員課程完成年度へ向けて、授業内容の一層の充実を図り、本学で学芸員資格を取得する学生が幅広い知識を学んで、社会に出て専門的な分野で活躍する契機になるものとする。</p> <p>平成28年度は、アメリカ・ニューヨークおよび関西の博物館・美術館に出張し、展覧会担当学芸員と意見交換を行った。これと並行して図録・文献資料の収集を行った。</p>	
2. 研究の成果	
<p>海外でのフィールドワークとして、アメリカ・ニューヨークの諸博物館・美術館を訪問した。メトロポリタン美術館では、中国展示室および日本展示室の作品展示方法を見学し、かつ同館学芸員と意見交換を行った。また同館の江戸時代絵画を実査した。東アジア美術の展示との比較するため、同美術館の西洋中世・近世・近代美術の展示のほか、同市内のMOMA、グッゲンハイム美術館を見学した。</p> <p>国内では、和歌山県立博物館「蘆雪潑刺—草堂寺と紀南の至宝—」と京都市美術館「生誕300年 若冲の京都 KYOTO の若冲」を見学した。取りあげられた絵師の長沢芦雪と伊藤若冲はいずれも「奇想の画家」として近年特に注目を集めており、展示の構成や作品の「見せ方」の工夫が求められる。このほか首都圏で開催される特別展の内覧会に出張した。内覧会に出席することは、美術館の現場の声を聞く機会であり、またコレクターとの交流の場ともなる。内覧会で展覧会カタログを入手することにより、開設されたばかりでいまだ蔵書数の少ない学芸員課程の参考書籍を増やすことにもつながっている。</p> <p>本プロジェクト研究は、代表者が担当しているところの平成28年度大学改革特別経費「学芸員資格取得課程の教育プログラムの修正」および「博物館 キャンパスメンバーズ」と連動する部分が大きく、代表者が担当する講義を通じて、学生の博物館・美術館への関心を高め、実際に博物館に行くように指導している。28年度大学改革特別経費「博物館 キャンパスメンバーズ」によって東京国立博物館と国立西洋美術館の常設展示を学生が無料で鑑賞できるようになったことは、学生</p>	

の経済的負担を軽減させつつ関心を持たせる点で、たいへん有益であった。わが国の博物館・美術館のうち、日本古美術を代表する東京国立博物館と、西洋美術を代表する国立西洋美術館という上野駅周辺の2館が利用できるようになったのは博物館教育の一層の充実につながる。

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

授業

国内外の博物館・美術館の規模や収蔵品の特徴、展覧会運営のスタイル等の情報や知見、また、博物館・美術館の図録やDVDの映像資料は、平成28年度研究代表者が担当する学芸員課程の講義（「博物館概論」「博物館資料論」）にて、随時学生に伝達している。

博物館・美術館・個人所蔵家のもとで作品調査を行った際に得られた情報は、美術史関連講義（「芸術と人間」「テーマで触れる芸術」「女性と文化」）の講義に活かしている。

代表者の専門領域である江戸時代絵画の研究成果について、公表実績・予定は以下の通り。

著書

（共著）『北斎 肉筆画の世界』宝島社（平成29年6月）

論文

（単著）「名所浮世絵の月」『月 一夜を彩る清けき光』 渋谷区立松濤美術館（平成28年10月）

（単著）「浮世絵の欲望の在処序説」『書物学』9 勉生出版（平成28年11月）

（単著）「浮世絵研究と経済史資料」『三井文庫論叢』50 別冊（平成29年5月）

（単著）「円山応挙筆 松鶴図屏風」『國華』1461 國華社（平成29年7月）

講演

「絵画に浮かぶ月」 平成28年11月3日 渋谷区立松濤美術館

「円山応挙の人物表現」 平成28年11月12日 東京美術倶楽部公開講座

「円山応挙の写生と動物画」 平成28年12月10日 東京美術倶楽部公開講座

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究
研究課題名	世界各地の博物館・美術館における東アジア美術の常設展示および特別展覧会企画と展示方法の比較研究
研究代表者	樋口 一貴
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	樋口一貴「絵画に浮かぶ月」 平成 28 年 11 月 3 日 渋谷区立松濤美術館	○
	樋口一貴「円山応挙の人物表現」 平成 28 年 11 月 12 日 東京美術倶楽部	○
	樋口一貴「円山応挙の写生と動物画」 平成 28 年 12 月 10 日 東京美術倶楽部	○
発表予定		

(2) 雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済	樋口一貴「名所浮世絵の月」『月 一夜を彩る清けき光』渋谷区立松濤美術館、平成 28 年 10 月	無
	樋口一貴「浮世絵の欲望の在処序説」『書物学』9 勉生出版、平成 28 年 11 月	無
	樋口一貴「浮世絵研究と経済史資料」『三井文庫論叢』50 別冊三井文庫、平成 29 年 5 月	無
	樋口一貴「円山応挙筆 松鶴図屏風」『國華』1461 國華社、平成 29 年 7 月	無
投稿中 投稿予定		

(3) 図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	内藤正人、樋口一貴、山本ゆかり、加藤陽介『北斎 肉筆画の世界』宝島社（平成 29 年 6 月）
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名